

サガギクの開花調節に関する研究(第 1 報) サガギク品種の開花特性

河江正明・祖一範夫

切花用サガギクの開花調節に関する研究の基礎的資料を得るため、現在香川県で栽培されている主要品種を用いて 1981～1982 年に 4 作型における開花特性を調査した。

1. 供試した 18 品種の季咲栽培における開花期は 10 月 26 日～11 月 7 日の間であった。
2. サガギクは、秋(輪)ギクに比べて茎が伸長し易く節間は長く、節数・葉数が少なく切花重は軽量であった。
3. 供試したほぼ全品種は、電照栽培で年末までに出荷する作型に適し、“嵯峨の姿”など 12 品種は 1 月出荷の作型に適応性を示した。
4. 電照栽培の 3 作型の違いによる草勢及び花姿への影響はほとんどみられなかった。しかし、管状花数は作期が遅れるにつれて減少する傾向を示した。
5. 白サビ病に比較的強いと思われる品種は“嵯峨の黄金”など 4 品種であった。
6. 供試品種中、各作型に最も適応性が高く、実用であると思われた品種は“嵯峨の霜”、“嵯峨の黄金”の 2 品種であり、これらはサガギクの品種特性を比較する上で、スタンダード品種になり得ると考えられた。